



RACE REPORT & INTERVIEW

4ストローク化されたJ-GP3クラス 激しい接戦の末、山本剛大が優勝!

今シーズンからJ-GP3クラスのマシンはすべて4ストロークに統一された。昨シーズンで終了したGP-MONOクラスからスイッチしてきたライダーも多く、今シーズンからロードレース世界選手権Moto3クラスに参戦している藤井謙汰がスポット参戦(章典外)するなど、話題の多い開幕戦となった。

ウォームアップで2台が接触するアクシデントがあり、スタートがウォームアップから仕切り直したため、決勝レースは1周減算の14周で争われることになった。

ホールショットはゼッケン1をつける藤井が奪うが、ポールシッターの長島哲太が3コーナーでトップに立つと、この2台が後続を引き離し、オープニングラップだけで約2秒の差をつけてコントロールラインを通過していく。3番手には徳留真紀がつけ、以下、渥美心、山本剛大、小室旭、松井洪弥、佐野優人、國峰琢磨が続いていく。

2周目に3番手までポジションを上げた山本と徳留が集団から抜け出すのが、追い上げてきた國峰が徐々に接近。3番手争いに加わってくる。

トップ争いは4周目のダウンヒルストレートで藤井が、翌周には3コーナーで長島がインを刺すなど、2台のバトルが続いていた。その間にペースを上げた山本が背後に迫り、6周目にはトップグループは3台になる。そして8周目のダウンヒルストレートで山本が長島を抜き2番手に浮上。翌週の1コーナーでは長島がポジションを取り返す。その後4コーナーのブレーキングで長島との接触を避けた山本がコースアウトしたため、1秒あまり差を広げられてしまう。しかし、10



周目にコースレコードを更新する速さを見せた山本は、再びトップグループに加わると、11周目にはトップに立つ。12周目の1コーナーで長島がトップを奪うと、3コーナーでは山本がしかけてクロスラインとなるなど、トップ争いは、さらにヒートアップ。トップを走る長島は、ヘアピンでふられてしまい、ダウンヒルストレートで2台に抜かれポジションダウン。この時点でトップに立ったのは藤井だった。

迎えたラストラップ、長島がV字コーナーで山本のインを突き2番手に浮上。藤井、長島、山本の順にヘアピンを立ち上がるが、2台のスリップをうまく使い、山本がダウンヒルストレートで一気にトップを奪う。長島も90度コーナーで藤井

のインに飛び込み2番手に上がると、さらに前をゆく山本に並びかけていく。しかし、セカンドアンダーブリッジを抜けた左高速コーナーで、まさかのスリップダウン。ゴール直前で転倒を喫してしまった。

山本は、そのままトップでチェッカーを受け開幕戦を制した。藤井は2番手でゴールしたが賞典外のため、2位は徳留。最後まで徳留に食らいついていた國峰は、僅かに及ばず0.097秒差の3位でゴールし、全日本初参戦で表彰台を獲得した。4位争いを繰り広げていた集団は、亀井雄大、佐野、仲城英幸、森俊也と続いてチェッカーを受けた。



最終ラップまで展開された激しいトップ争い

賞典外2番手 / 藤井謙汰

自分のマシンに、ちょっとトラブルが出ていた。かなり致命的なマシントラブルで、最終ラップで自分がインを刺せないような状態でした。前に出ようと思いましたが、結局トラブルが出ちゃって最後に抜かれてしまった。GPが開幕する前に、もてぎでトラブルを発見できてよかったと思います。トラブルが出なければ、ぶっちぎりで勝てる感触があったので、まともにも走れていれば、3台で走ってても間違いなく勝てたと思います。

2位 徳留真紀

(上写真左)

4ストロークへの乗り換えも問題なく、テストも順調にきていました。ハルクプロという大きなチームに加入して、マシン開発も含めて1カ月もない中で、チームがマシンを作ってくれました。強く頼りがいのあるチームですね。ただ、時間がない中でマシンを作ったので、路面温度とか気温に合ったタイヤのチョイスやサスセッティングが試行錯誤の段階でした。そのままレースを迎えることになった。決勝は結果的に(トップ争いから)離されてしまったけれど、まだ自分の走り合ったセッティングが作れていないので、これから詰めていきたいです。本当はタケとかテツ、謙汰といいレースを一緒にしたかった中で、離されちゃったのは悔しいけれど、苦しい中でもそれほどタイムを落とすこともなく、琢磨とのバトルも抑えることができました。ハルクプロに加入した初戦で表彰台はうれしいです。

優勝 山本剛大

(上写真中)

スタートは苦手で、いつものように失敗してしまっただけですが、追いつく自信はあったので、落ち着いて詰めていけば最終ラップまでには追いつくだろうと考えていました。テツ(長島)がけっこう、ガツガツ来ていたので、引き気味で行って、最終ラップの90度コーナーで勝負しようと決めていました。ヘアピンは3番手で立ち上がるつもりだったので、V字コーナーはインを空け気味に入っていたらテツが入ってきた。謙汰のほうがマシンが速かったので1台のスリップストリームでは追いつけないんですよ。だから2台のスリップを使えば追いついて90度で抜けると考えていたら、その通りになりました。ブレーキングには自信があるんです。今までは勝ったあとのレースは転倒したりしていたので、(シーズンまでの)2連勝は、すごくうれしいです。バイクも乗り換えて、安定して速く走れるようになったので今年はイけるんじゃないかと思っています。

3位 國峰琢磨

スタートでミスして出遅れて、たくさん抜かれて焦りましたが、落ち着いて一台一台抜いて行ったら徳留さんが見えたので、一生懸命追いかけてました。徳留さんと争って勉強がしたかったので、追いつけて抜きつ抜かれつが、できてよかった。徳留さんの前でゴールしたかったので最終ラップで仕掛けようと思ったんですけど、やっぱり(徳留は)うまくて、抑えられてしまいました。初めての全日本で表彰台はすごくうれしいです。自信にもなりました。これからも結果が残せるように頑張ります。